



# 法の光

～法光山 妙勝寺 通信～

No.278

令和五年(2023年) 9月1日 発行

文責：松田 龍顕

ホームページ <http://www.myosyoji.net/> 又は「法光山 妙勝寺」で検索

## 合掌

残暑見舞い申し上げます。

記録的な暑さが続いたこの夏でしたが、皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。

私議、この四月一日より妙勝寺 第三十二世と

して就任致し、はや五ヶ月が過ぎようとしております。

この間、至らぬ点 行き届かない点が多々ある中、総代・世話人・婦人会の皆様方を始め、檀信徒の方々のご協力・ご支援を頂き、お蔭様で大過なく法務を勤めることが出来ました。

又、お盆の一連の行事も無事に終える事が出来、

現在 九月の秋彼岸に向けて準備を進めている所でございます。

此度、長らくお待たせ致しましたが、先代住職がお出しになっておられた寺報『法の光』

を秋号としてお送りさせて頂きました。先代には及ばない、文才のない拙僧ではありますが、折々にお寺の様子などを 行事の案内も兼ねてお届け出来たらと考えております。

今後とも宜しくお願い致します。



# ☆令和五年秋季彼岸施餓鬼法要の御案内☆

## ～九月二十六日(火) 午後一時 開式～

九月は秋のお彼岸法要がございます。

佛様 ご先祖様へ法味を捧げ、日々の報恩感謝の気持ちを表しましょう  
多くの方々のご参詣をお待ちしております。

お彼岸法要では、お塔婆のお申し込みを承っております  
ご希望の方は、同封の葉書にてお申し込み下さい



### ◎お彼岸とは？

仏教では仏道の修行において、私達が生きている煩惱に満ちた世界を『此岸』それらから離れた悟りの世界を『彼岸』と例えます。

『此岸』と『彼岸』の間には大海のような川が流れており、容易には『彼岸』へと渡ることが出来ません。

日蓮聖人は『法華経』という真実の教えこそ 人々が『彼岸』を目指す方法であると見出されました。

日本においては、春分と秋分の七日の間は仏道修行を行う期間とされており、平安時代の頃から春分と秋分の七日間は彼岸法要が行われていました。

## ◎お彼岸中には何をするの？

お彼岸の期間中は中日に先祖の供養を行い、残る六日は『六波羅蜜』という彼岸に至るための六つの修行を一日に一つずつ修めます。

### ☆六波羅蜜☆

- ①布施…財、あるいは仏法を、または心の満ちた優しい言葉を他者に施す。
- ②持戒…戒律を堅固に守ること。
- ③忍辱…迫害侮辱等に耐え忍ぶこと。
- ④精進…身心を精励すること。
- ⑤禅定…心を整え、法の世界を思惟すること。
- ⑥智慧…仏の教えを学び、煩惱を断つこと。

## ◎お題目とお彼岸修行

他者に優しく接する 怒りの感情に囚われず相手の立場になって考える 誘惑に駆られない 至極当然な事柄のように思えますが、今を目まぐるしく生きる我々は、思うようにこれらを実践することが出来るでしょうか？

日蓮聖人は、六波羅蜜を実践できない我々は法華経とお題目を唱える事で『彼岸』へ至る事が出来ると説かれています。

## ◎日蓮聖人のおことば

### ～観心本尊抄～

「釈尊の因行の法、果徳の法は、すべて妙法蓮華經に具足している。凡夫の我々がこの妙法蓮華經の五字を受持するならば、おのずからその因行と果徳との功德を譲り与えられる」

### ～四信五品鈔～

「もっぱら智慧だけに限るとし、智慧に自信のないものは信をもって慧に代えることができるとして、究極的には信の一字をもって最も大切なものとされた」

日蓮聖人は お手紙の中でこのように説かれております。  
お題目を信じて唱えることが、最上のお彼岸修行なのです。

